

ひらやま 十四号

※ 今月は新聞掲載作品です。「ひらやま」は財光寺小ホームページにも掲載していますのでご覧ください。

かんたろうだー!!

三年 佐藤 珈遙来

わたしは今日おばちゃんと、おじちゃんと、ばあちゃんと、家ぞくで水清谷にいきました。そしてと小雨がふってきたけれどききませんでした。そしてそこについてたとき雨が少しふっていたので家の中に入ってカレーと、メロン、かきを食べました。カレーのお米はおじちゃんが育てていてそこにしかない「まぼろしのお米」とよんでいます。少し外に出てようすをみるとかんたろう（みみず）がうじゃうじゃいました。それにしおをふると体からおしつこのようなものがでました。そしてあばれました。そのかんたろうは大きくいしがきからドテン!!ドテン!!とおちていきます。雨にうたれてるのもわすれかんたろうをつかまえていたので次の日くしやみがいっぱいでした。



じゅもんで風を

五年 芳賀 美春

わたしのひいばあちゃん、心配性で笑顔がかわいいおばあちゃんです。そんなおばあちゃんのじゅもんに気付いたのは、4年生の夏ごろでした。

それは、私がおばあちゃんの家に行ったときでした。おばあちゃんに「暑い」と言ったら、小さな声で「すー、すー」と言ったのが聞こえた後に、そよ風がふいてきたので、びっくりして「私もまねできるかな」と思ってみるとあまりできなかったけど、家に帰ってやってみると少しだけそよ風がふきました。

2週間くらいに、おばあちゃんの家に行ってみると、少し強めの風がふいたので成功しました。このじゅもんのことをおばあちゃんに聞いてみると「風をよんですずしくしているんだよ」と言われて、おばあちゃんは自然に好かれていたんだなと思いました。

今はコロナでおばあちゃんたちに会えないけど、これからも家族を大切にしていきたいです。

コーヒー飲んだ

五年 世見竜之介

ぼくは、初めてコーヒーを飲みました。とってもにがくてのこそうとしました。だけど、「ここでのこしたら一歩前進できないぞ!それでもいいのならのこせ」と自分の心でいいきかせました。半分ぐらいのむと、口の中がとてもひりひりしました。冬だったからすこしさむくてだいが飲めて良かったけれど、夏だったらと思うだけでした。2回目は1回目よりにながなくてうれしかったです。20分ぐらいでのみきました。

ときどきぼくのお父さんは「このコーヒーはおいしいな」といいます。なんでもおいしいかぼくには分からないし、こんなにがいのものはあんまりないと思います。子どもにはちよつとはやいのみものなので、味が分かるようになったら、いっぱいみたいです。



ネコ

五年 本宮 昊輝

ぼくは、下校中、ネコを見かけた。

ネコは、「こつち見ないで。」と言うように、こつちを見てきた。後ろの方を見てみると、ネコの赤ちゃんが二ひきいた。

そのネコは、赤ちゃんを守っていた。ネコの、生命を受けつぐ様子を見て、ぼくは、心がとぎすまされたような気がしました。

